

各学校や地域における地域学校協働活動の推進を目的に、地域と学校の連携・協働に関する情報を発信する連携協働通信「架け橋」を発行しています。当課のWebサイトでもご覧いただけます。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/chiikirenkei/gakkoushien.html>

名瀬小学校 学校運営協議会 視察報告

7月24日(水)に、戸塚区の名瀬小学校で学校運営協議会が開催されました。名瀬小学校の学校運営協議会は平成26年に立ち上がりました。教職員と地域や保護者等で構成されている学校運営協議会委員が熟議の場を設けるとのことで、学校支援・地域連携課もオブザーバーとして参加させていただきました。

名瀬小学校の中嶋校長は、「地域とともにある学校を目指して、特色ある教育活動を大切にしていきたい」とともに、地域の様々な資源を活かして取り組んでいきたい。教育活動において地域の材が豊富で、地域の方々もとても協力的であり、教職員も子どもたちのために一生懸命取り組んでいる。昨年度の学校運営協議会でいただいたご意見も参考に、名瀬小学校の強みを活かして、社会に開かれた学校の実現に向け学校と地域と一緒に進めていきたい。」との旨を話していました。



協議会の熟議は、「特色ある学校づくりに向けて～50周年を迎え、地域と共に育てる名瀬っ子～」というテーマのもと5グループに分かれて実施されました。各グループでは、以下をはじめとして様々な話が展開されました。

- 「50周年に向けて、6年生の意識が高まるとともに、これまで名瀬小学校を作ってきた先輩(上級生)へのあこがれの気持ちをもっている子が多い。」
- 「子どもたちとともに、教職員も地域の方々とのつながりを大切にしていきたい。」
- 「集団登校をなくしたが、今までの経験の積み重ねや保護者・地域の方の見守りのおかげで、安全に実施できている。」
- 「子どもたちが、名瀬のまちの自然についてよく理解し、川や里山でものびのびと遊ぶことができている。里山を含め、自然のすばらしさを引き継いでいくことが大切。」
- 「ペア学年やブロック学年でも、互いに学び合うことができている。」



今回、多くの参加者が子どもたちのために、自分事としてお話をしていたのが印象的でした。今回の協議会には、上菅田笹の丘小学校の世古校長が講師として参加し、名瀬小学校の協議会のもちかたのよさ、地域と学校の連携・協働の大切さ、学校運営協議会のあり方について話しました。教育委員会事務局からも、昨年度からの形を継続し、何か大きなことをやる

うとするのではなく、コツコツと続けていくことによって持続可能な形にしていくことが大切だとお話をさせていただきました。今回の名瀬小学校の取組は、教職員と協議会委員が熟議の場をもつという形でしたが、同じような取組を行っている学校もあると思います。

今回の名瀬小学校の取組を参考にして、多くの学校により充実した学校運営協議会が広がるよう、教育委員会事務局としても発信を続けていきたいと思ひます。

第3回 学校・地域コーディネーター養成講座 報告

9月6日（金）9日（月）に、第3回学校・地域コーディネーター養成講座を実施しました。

今回は、はじめに「地域学校協働本部の委託料」について、お伝えしました。大切なこととして、

- ・委託料の管理については、**適正に執行管理をする必要がある**こと。
- ・**学校や関係者、活動に関わる方々と意見交換しながら活動計画を立てて、予算執行**をしていくこと。などを説明しました。

次に、地域社会や企業等と連携した教育活動を通して、資質・能力を育成し、各校の教育課程における自分づくり（キャリア）教育の充実を図ることを目的とした「はまっ子未来カンパニープロジェクト」**「SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業」**について、小中学校企画課より説明しました。



「はまっ子未来カンパニープロジェクト」で目指す資質・能力は、次の2点です。

- ①「チャレンジ精神・実行力・協働性・創造性・リーダーシップ」（起業家精神に係る資質・能力）
- ②自分自身も持続可能な社会の創り手であることに気付き、社会参画しようとする態度

①に関しては、「起業家」になる人を育てるのではなく、あくまでも「起業家精神」に係る資質・能力を育成するということが、②に関しては、「参加」ではなく「参画」する、計画の段階から関わっていくことが大切であることが伝えられました。

各学校が「はまっ子未来カンパニープロジェクト」に取り組むにあたり、学校が自主的に連携機関を見つけることを基本としています。ただし、学校で連携機関を見付けられない場合や連携機関の紹介を希望する場合は、自校の学校・地域コーディネーターに相談することを周知しています。

「SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業」は、SDGs達成の担い手育成（ESD）を推進することで、児童生徒は見いだした地域や社会の課題を自分たちで解決していくことができる、よりよい社会の創り手に成長していくことを目的に、平成28年度から文部科学省の指定を受けて行っているものです。この事業を進めていくにあたっては、地域・企業・NPO等との、地域課題や社会課題の解決といった目標を共有した上での連携・協働が重要となります。そこで、「学校」と「地域・企業・NPO等」の間をつなぐ学校・地域コーディネーターの存在に大いに期待が寄せられていることをお伝えしました。

「はまっ子未来カンパニープロジェクト」「SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業」についての概要を知ったところで、事例演習を行いました。

みなさんのもとへ、学校から
以下のような相談がきたらどうしますか？



「本クラスでは、アプリケーションを活用した地域の活性化を目的とした学習計画を立てました。アプリの開発・作成を目的とした企業を紹介していただきたい。」

「地産地消を大切にする方で、一緒にメニュー（レシピ）を考案してくださる機関、それを実際に販売協力してくださる機関を希望します。」

「職業講話の講師を探してほしい。」

「『お野菜クレヨン』に取り組んでいます。企業の方につながれず、困っています。力を貸していただけたらうれしいです。」

「生活科『まちたんけん』で、地域のおすすめスポットなどを紹介してほしい。計画の段階から、参加してほしい。」

「閉庁期間中に、学校で飼育しているウサギの面倒を見てくださる方を探していただきたい。」

実際に学校から上記のような依頼があった場合、どのように対応するかを具体的に考えていきました。「依頼内容を受けて確認するべきことは何か」について各グループで話し合う中では、相談・依頼内容により多少異なるものの、以下のようなものが挙げられました。

- 目的、ねらいは何か？
- 対象の学年、学級は？
- 教科等は？
- 最終的なゴールは？
- 時期は、いつからスタートしていつまで実施するのか？
- (依頼内容により) 体験の有無は？
- 予算は？
- ボランティアは必要か？
- など・・・

上記の確認事項をもとに、グループごとに学校・地域コーディネーターとして提案可能な事項を挙げていきました。どのグループでも、活発な協議が行われていました。

最後に教育委員事務局からは、学校・地域コーディネーターとして活動していくにあたって「子どもたちにどんな力を付けたいのか。」という視点も併せてもっていただけるとよいことを伝えるとともに、活動を進めていく上では、学校と授業計画等をしっかり共有して、コミュニケーションを密にしながら取組を進めていくことが大切であるということも確認していきました。



研修振り返り（自由記述）

（アンケートより抜粋）



- 地域学校協働活動の「委託金」については、国からの補助金の活用のため制限があることや、学校との関わり、会計管理について、よく理解できた。
- 「委託金」は税金であること、組織のお金なのできちんと管理・報告しなければいけないことが分かった。
- 「はまっ子未来カンパニープロジェクト」と「ESD」は、子どもが主となり学ぶことを支援する、ということを確認した。グループワークでは、たくさんの意見が出ることで可能性が広がった。ざっくりとした相談内容にとまどったが、それが現実なんだと想像できた。

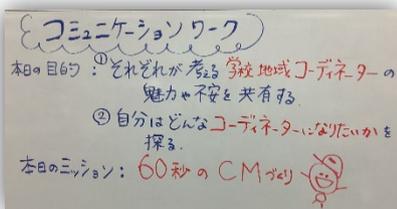
- 活動の目的とゴールを学校の先生に詳しく聞き、共通認識をもつことが大切である。グループで意見を出し合うと新しい発見があった。他校のコーディネーターの方と交流することができて、不安に思っ

いることを聞いてもらえてよかった。

- ・子どもたちにとって、何が一番大切なのかを忘れずに考えることが大切だと思った。
- ・「子どもたちに付けたい力」。ここが抜けないように、置いていかないようにしたい。大人だけで考えていると特に！
- ・「目的の共有」を通して、学校と地域が「協働」していけるよう、その力になれるよう地域コーディネーターとして活動していきたいと思った。参加されているみなさんのボランティア精神に、とてもよい気持ちになった。

第4回 学校・地域コーディネーター養成講座 報告

第4回学校・地域コーディネーター養成講座は、方面別に4日間開催しました（10月3日北部、4日東部、9日西部、10日南部）。講師として、横浜市学校・地域コーディネーター連絡会 高橋 由美子様、ファシリテーターとして、参画はぐくみ工房代表 竹迫 和代様をお招きし、ワークショップ形式の研修を行いました。



今回の研修では、

- ・学校・地域コーディネーターのイメージを共有し、自分がどんなコーディネーターになりたいのかを探る。
- ・学校・地域コーディネーターの魅力や課題が短時間で聴き手に伝わり、かつ聴き手を引き込むプレゼンテーションのコツを学ぶ。

を目的として行いました。

まずは、各自がコーディネーターとしての思い（日ごろ感じていること・コーディネーターとしての魅力や不安）などを書き出し、それをもとに詩を作りました。そして、その詩をグループで聞き合い、コーディネーターとして訴えたいことを探りました。

次がいよいよ、本日のメイン「CMづくり」。コーディネーターの活動における「よい面（天使）」と「課題面（悪魔）」のどちらかについて、グループで協力してCMに見立てて1分間で表現します。早々にCMのシナリオを完成させ、立ち稽古を始めるグループ。悩みながらじっくり話し合うグループ…。

いよいよ発表となります。どのグループも工夫を凝らした演出で、見ている方からの共感の拍手や笑いが溢れました。

最後は、各自が今回のワークを経て考えた、「自分が目指したいコーディネーター像」をうちわに書いて宣言しました。今後の各校での活動に繋げていただければと思います。



研修振り返り（自由記述）

（アンケートより抜粋）

- ・各自の思いをまとめる大変さと、協力して1つのものをつくる楽しさを学ぶことができました。
- ・みなさんと同じような不安をもっている中、共有し、CMとして表現することで前向きに捉えることができた気がします。
- ・1人ではなかなかアイデアが浮かばないが、人数がいればいろいろな切り口が考えられることを改めて実感しました。
- ・目的達成のために、案や意見を出し合い、うまくまとめていく過程でコミュニケーション力の大切さを感じました。

今年度の研修のお知らせ

方面別 学校・地域コーディネーター研修・交流会②

学校・地域コーディネーターを対象に、今年度2回目の研修及び交流会を方面別に日時を設定して開催します。なお、1回目に実施した研修・交流会と内容は異なります。ぜひ、ご参加ください。

日時及び会場（今年度2回目の実施）

	日 時	会 場
1	11月14日（木） 午前の部（東部方面） 9:30～ 午後の部（北部方面） 14:30～	花咲研修室
2	11月20日（水） 午前の部（西部方面） 9:30～ 午後の部（南部方面） 14:30～	花咲研修室

※方面別に日時を設定していますが、ご都合が悪い場合は他の方面の会に参加していただくことも可能です。

地域と学校の連携・協働による学校運営の改善研修

教職員を対象に研修を行います。

教職員の方々にも地域と学校の連携・協働について知っていただきたいと考えています。

ぜひ、地域連携の担当教職員など対象者への周知をお願いいたします。

※本研修は教職員育成課の研修と兼ねています。

1 日時及び会場

	日 時	会 場
1	12月 5日（木） 15:00～	花咲研修室
2	12月 10日（火） 15:00～	花咲研修室

- 2 内 容
- 認定NPO法人こまちぷらす理事長 森 祐美子 氏の講義を予定しています。
 - グループワーク

※詳細は、今後発出します通知でご確認ください。

学校運営協議会の設置について（学校向け情報）

現在の学校運営協議会の設置校数は令和6年10月現在で500校になっております。今回、様々な事情により設置ができなかった学校においては来年度の4月の設置に向けて2月中旬までに書類と名簿の提出をお願いいたします。設置に向けて、地域との調整や委員の選定、既存の組織の運用など様々な部分において、まだ時間が必要だという学校においては、設置に向けての相談や地域の方や委員になられ

る方への説明などを当課にて行うことが可能です。その場合は、ぜひご相談をいただければと考えておりますので、ご連絡をいただくとありがたいです。引き続き、よろしくお願いいたします。

学校運営協議会の令和7年4月設置について

	学校運営協議会 設置の機会
設置日	令和7年4月1日
申請書提出の締切日	令和7年2月中旬

○申請の際は、設置申請書と名簿を合わせてご提出をお願いします。

※現在、単独設置の学校運営協議会を、複数校による合同協議会に切り替える場合、また複数校から単独での協議会をご検討の場合、以下の点にご注意ください。

- ① 合同で立ち上げるまでの間、単独での学校運営協議会の設置校であり続けます。
- ② 合同協議会または単独の協議会への移行について委員への丁寧な説明が必要だと考えます。
- ③ 協議会移行の際は再度、申請書と名簿の提出が必要になります。

※設置に向けてお困りの際は、学校支援・地域連携課にご連絡ください。

学校・地域コーディネーターの配置について（学校向け情報）

令和7年度 学校・地域コーディネーターの配置について

学校運営協議会と同様に、地域と学校を繋ぎ、総合調整を行う「学校・地域コーディネーター」の配置も継続して進めています。

令和6年度も109校の学校から163名の受講者が「学校・地域コーディネーター養成講座」を受講しています。うち3校から新規の学校・地域コーディネーターが推薦されました。

現在横浜市では461校に学校・地域コーディネーターが配置されています。

「学校・地域コーディネーター」は学校長の推薦が必要で、学校長の推薦を受けた方に、年間5回の「学校・地域コーディネーター養成講座」を受講していただいています。来年度の推薦に向けて新しく学校・地域コーディネーターの配置を考えている場合は推薦のご準備を進めていただくとありがたいです。

また、複数人配置することで活動が活発になることも考えられますので、お仲間を増やすこともご検討ください。一度に複数名の推薦も可能であり、複数名での養成講座への出席も可能です。推薦は、令和7年3月中旬より開始予定です。推薦をもって6月より開始される学校・地域コーディネーター養成講座受講可能となります。どうぞよろしくお願いいたします。

何かお困りなことがありましたら、いつでもご相談ください。

学校支援・地域連携課 671-3278